株式投資コラム

『スパークス　日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第81号（2010年10月8日）

「アジアでの日本企業のブランド」

近年に日本企業の国際競争力が大きく低迷し、中国や韓国等の企業にシェアを奪われているといった報道が目立ちます。実際アジア各国の企業の中には高い成長を遂げている企業も少なくなく、日本企業を凌駕するほどまでに成長を遂げた企業も少なくありません。

しかし日本企業の全てが他国の企業に負けてしまっているのでしょうか。香港紙・文匯報と中国企業報社および中国国務院が共同で行った「第5回アジアのブランド500強ランキング」によると、トップ10は順にサムスン電子（韓国）、トヨタ自動車（日本）、HSBC銀行（香港）、LG電子（韓国）、中国移動（中国）、清水建設（日本）、ソニー　（日本）、東芝（日本）、パナソニック（日本）、資生堂（日本）となっており、日本から6社、韓国から2社がランクインしております。　またトップ100にランクインした日本企業は57社となり、前回から1社増加しております。一方、韓国からは前回と同じ7社、中国本土からは前回から3社減の23社がランクインしております。

このランキングを見る限り、１位こそ韓国企業であるものの、アジア企業における日本企業のブランド力の高さは非常に高いものがあるように見えます。今後も成長を遂げる企業がアジア諸国から次々と出てくることは予想されますが、日本企業の高い品質に裏づけされたブランド力の高さというものは、一朝一夕に崩れるものではないと考えられます。そして日本企業の中にもまだランキングの上位には出てきてないものの近年、目覚しい勢いで、海外での売上を伸ばし、ブランド力が上りつつある企業も存在しております。

そのような企業に投資を行うことが今後の日本株投資において有効な戦略の一つと考え、また我々が他の投資家に先駆けいち早く投資を行うことが出来るように日々地道な調査活動を今後も行ってまいります。

（注）本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。また、上記は株式投資に関して理解を深めていただくためのものであり、特定の有価証券を推奨しているものではありません。

本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。